

## 第23回 栗東市教育研究発表大会

令和8年2月12日(木)に「第23回栗東市教育研究発表大会」を栗東市総合福祉保健(なごやか)センターで開催しました。

開会行事では、主催者を代表して、今井義尚教育長から開会のあいさつがありました。教育長より、今年度の教育奨励事業において、多くの先生方からの教育実践が寄せられたことについて、各校園の保育教育に対する熱意や意欲への賞賛と激励がありました。そして、優秀賞と奨励賞の受賞者全員に賞状授与が行われました。



### 教育研究奨励論文発表

『国語科における「主体的な読み」を育む授業づくり』  
～ICTの活用と個別支援の視点から～

<発表者> 葉山中学校 中川 梓 教諭



研究奨励論文の優秀賞の中から、葉山中学校 中川 梓 教諭に発表をしていただきました。国語科において批判的に読むことを重視した研究実践で、ICTを用いた思考ツールの活用や生徒一人一人に寄り添った指導など、たいへん参考になる発表でした。

### 【参加者からの声】

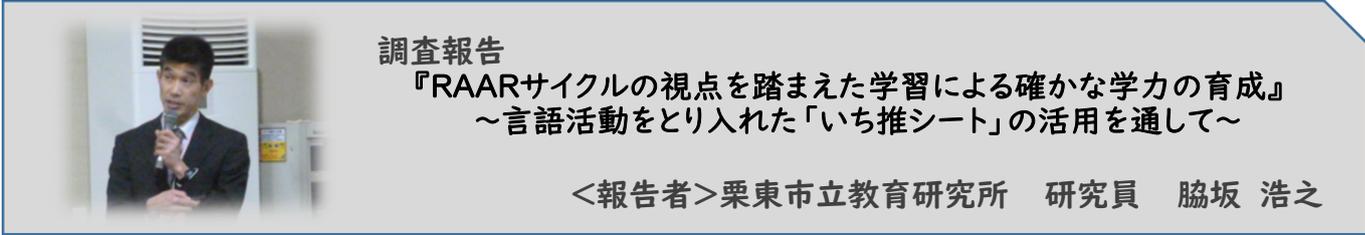
- ・ 子ども一人ひとりに個別の配慮を行い、着実に力がつくような取組を通して、主体性を向上させていきたいと思います。研究内容をとてもわかりやすくまとめておられて、発表もたいへん聞きやすかったです。課題に基づき、丁寧な授業実践がされていて、小学校にも参考になるよい研究であった。
- ・ 批判的に読むという力が現代の情報社会においてとても重要だと改めて気づくことができました。現代社会を生きて行く子どもたちに身につけてほしい力を考え、国語を通して育てていました。ICT思考ツールを使用することで生徒の思考が活性化していく過程がよくわかりました。
- ・ 通級との連携も大切であることが実証されたレポートで、大変興味深い研究だった。ICT等を活用して子どもたちが主体的に学びに向かえるようにさまざまな実践がされていた。メタモジの活用や思考ツールなど、活かそうなのものがたくさんあったので、明日以降の授業づくりにいかしていきたい。

### 教育研究奨励論文講評

<講師> 滋賀大学教職大学院 准教授 北村 拓也 氏



教育研究奨励論文の書き方や審査に関わっていただいた北村准教授から、応募者全員への講評をいただきました。研究テーマや研究の視点、実践の分析や評価等、たいへん丁寧な講評と温かいお言葉で研究論文の価値付けをしていただき、報告者の意欲につながりました。今後も本市の保育・教育に生かせるよう努めてまいります。



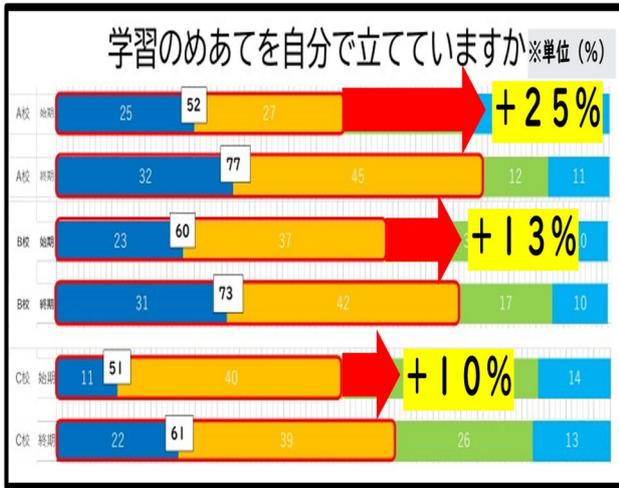
**【調査研究の報告】**

全国学力学習状況調査の結果を踏まえて、本市の子どもたちのさらなる「確かな学力」育成のために指導者の指導改善を促すツールとして「いち推シート」を作成しました。本シートを活用することで、RAAR サイクル（「現状把握」をして、学習の「めあて」を立て、学びを「行動」にうつし、学習を「ふり返る」サイクル）を指導者が自然と意識することができ、子どもたちの「確かな学力」の育成につながりました。

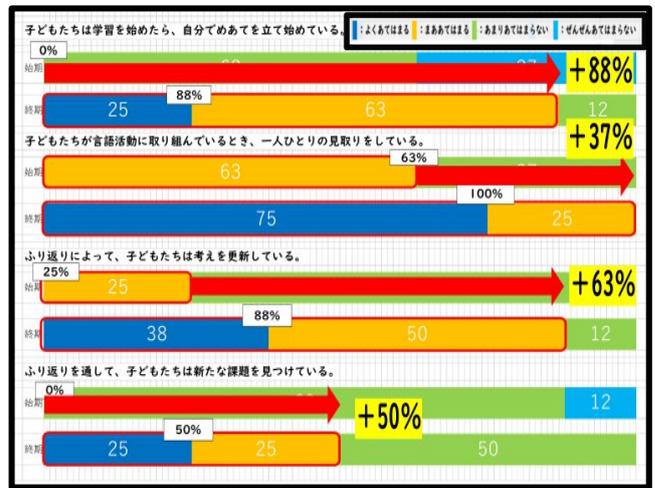
**【研究の内容とその成果】**

**1. 研究協力校における現状の把握と指導者の取組による変容**

**【子どもへの質問調査】**



**【指導者への質問調査】**



RAAR サイクルの視点を踏まえた学習が、学びの積み重ねにつながり、このことが「確かな学力」の育成につながるということが明らかになったと言えます。RAARサイクルの視点を踏まえた学習は「いち推シート」や「学びの記録シート」を活用しながら、魅力的なゴールに向かって言語活動をとり入れることを前提として取り組むと効果的であることも明らかになりました。

**2. RAAR サイクルの視点を踏まえた学習（取組）の実際とその成果**

Research・Anticipation・Action・Reflectionの各段階において、指導者は子どもたちのレディネスに基づいて現状を把握し、単元のゴールを見据えながら、次の時間の指導・支援につながるように、子どもたちの学びに伴走しました。子どもたちも学びの必然性のある学習を通して、考えを深めながら、自分の学びを振り返り、次の時間にかかすというRAARサイクルを通して、学びを積み重ねることができました。

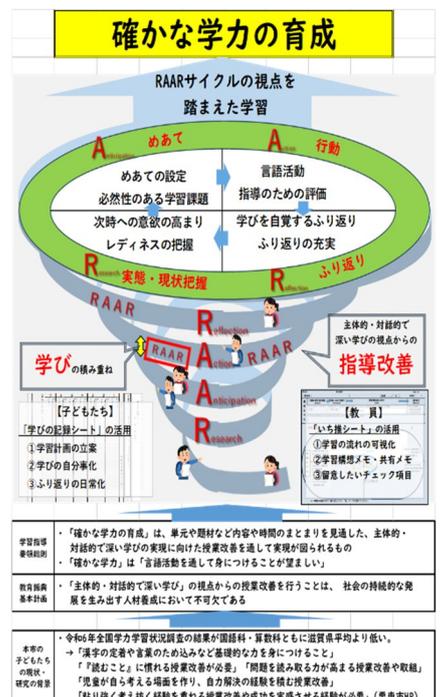
**【研究のまとめ】**

1. RAARサイクルの視点を踏まえて、言語活動をとり入れた学びの必然性のある学習を実践すれば、子どもたちの確かな学力の育成につながります。
2. いち推シートを活用して、RAARサイクルの視点を踏まえた学習を実践すれば、指導改善につながります。

**【課題】**

○指導者が指導改善したとしても、すぐに子どもたちが主体的に取り組むようになるとは限りません。したがって、子どもたちと同様に、指導者も学び続け、粘り強く指導改善し続けることが指導者には必要です。

R7年度 栗東市立教育研究所 調査研究 研究概要図



## 【参加者からの声】

- ・ 今回の調査報告は、大変自分の授業改善に役立つお話だったと感じています。授業の最初に見通しを立てて、子ども自身が「この単元でゴールをどこに設定するのか」「授業の中で自分がどういう力を身につけていくのか」といったところを一覧的に見ることができる点です。視覚的にも分かりやすく、子どもが自分の学習に主体的に取り組んでいくにあたって、とても重要なことだと思いました。
- ・ 様々な学校と連携しながら研究をされていたことに感心しました。こうやって栗東市の子どもたちの学びが支えられているということに、初めて気づきました。

研究  
成果物デスクネット  
「文書管理」

教育委員会&gt;教育研究所

&gt;研究成果物&gt;令和7年度

にあります!

※ダウンロードして、  
ぜひご活用ください!

## 教育講演会

『子どもの幸せを生み出す「勇気づけ教育」の組織的展開とその効果』  
～子どもの学びに向かう力や困難に立ち向かうレジリエンスを高める「勇気づけ教育」～

&lt;講師&gt; 国立大学法人 鳴門教育大学 教授 久我 直人 氏

教育講演会では、鳴門教育大学の久我直人教授にご講演いただきました。子どもの現状や課題に対して、保育士や教職員が現場でどのように子どもと向き合い、何を大切にして実践することが必要か、市の教育方針の「レジリエンスを高める栗東の教育」にも触れてお話いただきました。講演は、保育や教育の本質に迫る内容で、多くの教職員が自身を振り返り、今後の実践に向けて元気をいただきました。

## 【参加者からの声】

- ・ 愛着形成の大切な時期に子供を預らせていただいている。家庭とともにという思いもあったが、愛着の再形成は誰でもいつでもできると聞き、自分にできることを考えていきたい。
- ・ 目に見えない子どもの内面に働きかけ、子どもの意識と行動の構造を探ることや、頑張りや優しさを発揮させる条件として、子どもが自分に対する信頼をもてる勇気づけの教育が必要であることなど、「根源」に迫ることの重要性について確認できた。
- ・ メモをする手が止まりませんでした。一番心に残ったのは「価値づける」こと。これこそ教師の仕事だと納得しました。心理的安全性が集団の活力を生み、学力が向上する理由に目から鱗でした。
- ・ 今本校が直面している課題と直結した講演をいただきました。愛着障がいのある子どもへの関わりは本当に難しく、時間がかかります。しかし、大人があきらめず、関わりを持ち子ども同士をつなげ、自己有用感、自尊感情を高めていくことがまちがいのない方向性であると実感することができました。
- ・ 今回の話を聞いて、子どもたち一人ひとりを大切にすること、それを日頃から言葉を通して伝え続けていくことの大切さを改めて学んだ。いたずらや良くないことをしている子（特に繰り返してやってしまう子）に関しては、つつい行動を止めさせる声かけが中心になってしまう。それも大切だけど、「先生はあなたの味方だよ」ということもあわせて伝え続け、子どもと確かな信頼関係が築けるようにしたいと思う。とても学びの多い研修でした。すごい研修でした。

# 令和7年度 教育研究奨励論文一覧

学校園名	種別	氏名	研究主題
金勝第2保育園	個人	遠藤 正野	わくわくドキドキ心動かす体験を通して育む しなやかな心と体 ～レジリエンスを高めるための子どもへのかかわり方を探る～
大宝西幼稚園	共同研究	山本 聖良 池田 美香	「心動かし いきいきと遊ぶ 大西っこ」をめざして ～子どもと保育者が、ともにわくわくする保育をとおして～
葉山幼稚園	個人	稲本 珠実	思いを伝え合い、共に遊び学ぶ姿を目指して ～サークルタイムを取り入れたことで見えた子ども達の変容～
金勝小学校	個人	寺嶋 麻里	第2学年国語科における学力向上に係る実践的研究 ～担任と読み解く力加配等多様な教員との協働による 語彙力向上の取り組みを窓口～
葉山小学校	個人	伊勢村駿斗	児童の表現力を高めるICT活用の工夫 ～総合的な学習の時間におけるプレゼンテーション指導を通して～
葉山東小学校	個人	西川 和宏	他者貢献による自己有用感の醸成を目指した学級づくり ～アドラー心理学の共同体感覚理論に基づく実践を通して～
治田小学校	個人	今井 佐	SSRに向けた適応指導教室のあり方を探る
治田小学校	個人	櫻井 美紅	人との関係づくりに不安を抱える子どもが 自分らしく輝くための支援とは ～教育現場での関わりの中で見えた変容のきっかけに着目して～
治田小学校	個人	隨念 奈々	児童一人一人の情報活用能力の育成 ～学習活動に一人一台端末を用いて 情報を収集・整理することを通して～
治田東小学校	個人	中井 早紀	小学校における作文指導の一考察 ～週に1回でも「書きたい」が溢れる作文指導を目指して～
治田西小学校	個人	城田 悠生	体育科の学習におけるICTを活用した実践研究 ～目標達成のために、見通しを持って主体的に学習に取り組むこと ができる児童の育成をめざして～
大宝小学校	個人	建林里歌子	自己肯定感を高める「声かけ」「環境づくり」 ～一人一人の児童が安心できる教室を目指して～
大宝東小学校	個人	伊藤 亮介	大宝東小学校の新たな挑戦2025 ～第3学年以上による教科担任制・チーム担任制の実施～
葉山中学校	個人	中川 梓	国語科における「主体的な読み」を育む授業づくり ～ICTの活用と個別支援の視点から～

## 来年度に向けて

教育研究奨励論文に応募されたこと、研修講座や研究大会に参加されたこと等、どれも保育士・教職員としての資質向上につながることです。日々忙しい中での執筆であったと思いますが、研修・研究に取り組まれたことが、きっと皆さまのこれからの保育・教育活動にいかされると願っています。

来年度も、皆さんのニーズにお応えし、少しでも日々の保育・教育活動にいかしていただけるような内容で企画・運営をしていきます。引き続き、ご理解・ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

来年度も  
よろしくね!



栗東市立教育研究所 〒520-3088 栗東市安養寺一丁目 13-33 栗東市教育委員会事務局内  
TEL 077-551-0130 ・ FAX 077-551-0149 E-mail [kenkyusho@city.ritto.lg.jp](mailto:kenkyusho@city.ritto.lg.jp)